

平成24年度秋冬作野菜花き関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

公益財団法人日本植物調節剤研究協会

平成24年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成25年7月9日(火)にホテルメトロポリタン高崎において開催された。
この検討会には、試験場関係者25名、委託関係者14名ほか、計46名の参集を得て、除草剤10薬剤(21点)、

生育調節剤6薬剤(12点)について、試験成績の報告と検討が行われた。
その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成24年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

注)アンダーラインは新たに判定された部分を示す

A. 野菜関係 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) 【委託者】	作物名	試験の 種別 ・種別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. AH-01 液 アミンホリンPトリウム塩 :11.5% [*Meiji Seika 7766 北興化学工業]	コンコク	適用性 継続	植調研 和歌山 香川 (3)	ねらい		実	実) [秋冬作:一年生雑草] ・植付後萌芽前・雑草生育 期(草丈30cm以下) ・全面茎葉処理 ・300~500mL<100~ 150L>/10a
				対象 雑草			
2. NK-1101 水和 S-メトフホロール:24.8% 7-プロピリン:26.6% [日本化薬]	タマネキ	適用性 新規	植調研 兵庫 淡路 白石 (3)	ねらい		継	継) ・効果、薬害の確認
				対象 雑草			
3. NP-55 乳 ピロキシム:20% [日本曹達]	タマネキ	適用性 継続	植調研 愛知 福岡 (3)	ねらい		実・継	実) [秋まき露地移植:22.4 はかりを除く]一年生(株 科雑草秋冬作、露地:一 年生(株)雑草(スズメノ ヒラを除く) ・生育期、(株)雑草3~5葉期 ・45~200mL/150~200mL <100~150L>/10a ・全面茎葉処理 継) ・除草効果の向上について ・(株)雑草6~8葉期での効 果、薬害の確認
				対象 雑草			
4. トリアラリン 粒 トリフルアリン:2.5% [クワケキヨ日本]	タマネキ	適用性 継続	植調研 愛知 福岡 (3)	ねらい		実・継	実) [本圃:秋播秋冬作、露 地:一年生雑草(ワケギ科、 ビワ科、アザミ科、アザ ミ科を除く)] ・定植後全面および春期ら ぬ間定植後、雑草発生前 ・各400~600g/4~5kg/10a ・体系土壌処理全面土壌処 理 [秋冬作、露地:一年生雑草 (ワケギ科、アザミ科、アザ ミ科を除く)] ・生育期(春期)、雑草発生前 ・4~5kg/10a ・畦間土壌処理 継) 定植前処理での効果、薬 害の確認。
				対象 雑草			
	タマネキ	適用性 継続	佐賀 白石 (1)	ねらい			
				対象 雑草			
				設計 薬量 (水量) /10a	全面土壌処理 定植前、雑草発生前 4kg、5kg 対) トリアラリン粒剤2.5 定植後、雑草発生前 5kg		
				設計 薬量 (水量) /10a	全面土壌処理 定植前、雑草発生前 4kg、5kg 対) コーゴーション細粒剤F 定植前(マルチ前)、雑草発生前 5kg		

B.平成24年度 春夏作分 野菜関係 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 新・雑 の 別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. AH-01 液 グロホシネートPナトリウム 塩:11.5% [Meiji Seika ファルマ 北興化学工業]	アスパラ ガス	適用性 継続	<北海道道南> <北海道> 山形園試	ねらい 対象 雑草 (3) 設計 薬量 <水量> /10a	収穫打ち切り直後、雑草生育期 一年生(科) 全般 一年生(葉) 全般 多年生(科) 全般 多年生(葉) 全般 その他 スキナ 全面茎葉散布 収穫打ち切り直後・雑草生育期(草丈30cm以下) 500mL <100L> 500mL <150L> 1000mL <100L>	-	・前回の判定どおり(実・継) (収穫打ち切り後につい ては継続)
2. CG-123a フロアブル アトラン:27.8% S-メトラロール26.4% [シソジ・エンタジヤパン]	オト	適用性 新規	茨城 山間地帯	ねらい 対象 雑草 (1) 設計 薬量 <水量> /10a	定植後萌芽前 一年生(科) 全般(スズメノカタビラを含む) 一年生(葉) 全般 多年生(科) - 多年生(葉) - その他 - 全面土壌処理 定植後萌芽前 250mL <100L> 500mL <100L> (倍量区) 対) ケチノフロアブル 定植後萌芽前 400mL <100L>	-	・前回の判定どおり(継) ・適湿状態で処理する。 ・展着剤は不要。
3. NC-360 フロアブル ケチノフロアブル:7% [日産化学工業]	ブロッコリ	適用性 新規	1鹿兒島大隅	ねらい 対象 雑草 (1) 設計 薬量 <水量> /10a	1科3-6L期(東北以南) 一年生(科) 全般(スズメノカタビラ除く) 一年生(葉) - 多年生(科) - 多年生(葉) - その他 - 茎葉処理(全面茎葉処理) ブロッコリ生育期、1科雑草生育期(3-6L) 200mL <25L> 200mL <100L> 300mL <25L> 対) ナブ乳剤 1科3-5L 150mL <100L>	-	・前回の判定どおり(継) ・効果完成時(処理後3 週間が目安)で調査す る。 ・散布水量25Lは少水量 散布用として散布。 ・処理時の雑草の草丈・ 葉齢調査を行う。 ・必要に応じて広葉雑 草を防除する。
5. NK-1101 水和 S-メトラロール:24.8% アロマトリン:26.6% [日本化薬]	ヤマイモ	適用性 新規	青森 野菜研	ねらい 対象 雑草 (1) 設計 薬量 <水量> /10a	植付後萌芽前(東北以南) 一年生(科) 全般 一年生(葉) 全般 多年生(科) - 多年生(葉) - その他 - 全面土壌処理 植付後萌芽前(雑草発生前) 225g <100L> 300g <100L> 対) 一任	-	・前回の判定どおり(継)
6. NP-55 乳 トキシシム:20% [日本曹達]	ヤマイモ	適用性 新規	青森 野菜研	ねらい 対象 雑草 (1) 設計 薬量 <水量> /10a	1科雑草6-8L期 一年生(科) 全般(スズメノカタビラを除く) 一年生(葉) - 多年生(科) - 多年生(葉) - その他 - 全面茎葉処理 生育期、雑草生育期(1年生(科雑草)6-8葉期 200mL <100L> 200mL <150L> 対) オトフロアブル 生育期、雑草生育期(1年生(科雑草)6-8葉期 300mL <100L>	-	・前回の判定どおり(実・継) 処理時の雑草草丈の確認 を行う。展着剤は不 要。

C. 野菜関係 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 新・雑 の 別	試験担当場所 ○は試験中など (数)	ねらい・試験設計等	備考	判定	判定内容
1. ジベレリン 水溶 ジベレリン:3.1% [沖縄県農林水産部]	ヤインゲン (矮性 品種)	適用性 継続 (自主)	沖縄 宮古島 沖縄 農業大学 鹿兒島	ねらい 設計 薬量 <水量> /10a (4)	節間伸長促進(処理回数の拡大) 茎頂部の新葉を中心に散布 本薬0.5~1.5枚展開時 5ppm×1回 <2mL/株> 本薬0.5~1.5葉期→1回目の3~5日後 5ppm×2回 <2mL/株> 10ppm×2回 <2mL/株> (倍量葉害)	実・継 実	[促成・半促成栽培;節間伸 長促進] ・本薬1枚展開前後 ・5ppm<2mL/株> 1~2回 ・茎頂部に散布 注) 2回目処理は1回目の3~ 5日後に行う。 継) →2回処理での効果の確認

D. 平成24年度 春夏作分 野菜関係 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計等		備考	判定	判定内容
1. ジベレリン 水溶液 ジベレリン: 3.1% [協和発酵バイオ]	マノイ	適用性 継続	青森 野菜研	(1)	ねらい むかご発生抑制、芋肥大促進 設計 葉茎散布 発芽4週間後～収穫2ヶ月前 薬量 25ppm×5回(散布間隔10日間) <100L <水量L 25ppm×8回(散布間隔約1週間) <100L /10a 50ppm×5回(散布間隔約10日間) <100L 50ppm×8回(散布間隔約1週間) <100L 対) 無処理	・調査項目:むかご発生 量、芋重	—	・前回の判定どおり(実・継)

E. 花き関係 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計等		備考	判定	判定内容
1. NGR-081 水溶液 イブプロフェン: 0.01% [日本農業]	ミニバラ	適用性 新規	福岡	(1)	ねらい 発根促進効果 設計 挿し穂基部浸漬 定植前(挿し穂基部浸漬) 薬量 10mL/1L 処理時間:10分 <水量L 10mL/1L 処理時間:1時間 /10a 50mL/1L 処理時間:10分 50mL/1L 処理時間:1時間 挿し穂全体浸漬 定植前(挿し穂全体浸漬) 1mL/1L 処理時間:10分 1mL/1L 処理時間:1時間 5mL/1L 処理時間:10分 5mL/1L 処理時間:1時間 対) オキシエチレン液剤 挿し穂基部浸漬 定植前 慣行		実・継	実) [ミニバラ:発根促進] ・定植前 ・挿し穂基部浸漬 10~50mL/水1L(1~5ppm) 10分~1時間 継) 挿し穂全体浸漬での効 果、葉害の確認

F. 平成24年度 春夏作分 花き関係 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種類 新・継 の別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計等		備考	判定	判定内容
1. AKD-8151(L) 液 1-ナフトレン酢酸ナトリウム: 0.2% [アークアキョウ]	花木	作用性 新規	福岡 果樹苗木	(1)	ねらい 挿し木発根促進 設計 挿し穂基部浸漬(10秒) 挿し木直前 2倍 <水量L 原液 /10a 比) オキシエチレン液剤 挿し穂基部浸漬(10秒) 挿し木直前 2倍	・代表的な花木数種で試 験を行う。 ・詳細な試験設計は別途 打合せ。	—	(作用性)
2. NPR-063 水和 フルボ酸リジン: 50% [日本農業]	ペニナギ ササ	適用性 新規	福岡 果樹苗木 南九州大	(2)	ねらい 新梢伸長抑制 設計 全面均一土壌散布 薬量 萌芽2週間前または新梢伸長開始2週間前 <水量L 800g <100L /10a 800g <300L 2000g <100L 比) クリフエート粒剤 全面土壌混和 萌芽2週間前または新梢伸長開始2週間前 10~20kg	・処理前に樹高を一定の 高さで刈り揃える。 ・樹高、樹径、新梢長、新 梢数、葉張りを調査する。 ・最終調査時に処理前の 樹高で刈り込み、刈り取 り部位の生重、乾物重を 測定する。 ・可能であれば、着蕾数、 花芽数、秋枝発生数、葉 香(葉色、開花への影響、 その他)などを観察(調 査)する。 ・調査は処理後3ヶ月、6 ヶ月、9ヶ月を目処に行 う。	継	・前回の判定どおり(継)